

医薬品のメーカー変更時における  
「患者が求める説明」と「薬剤師が必要だと感じる説明」のギャップ調査

1) (株) あおば調剤薬局 あおば薬局 大曲店、2) 豊平公園店、3) 富川店、4) 門別店  
三上 裕也<sup>1)</sup>、村上 飛鳥<sup>2)</sup>、工藤 しのぶ<sup>3)</sup>、小笠 慎弥<sup>4)</sup>

【目的】2020年12月以降、多くの医薬品で供給不安が続いている。これにより、定期服用薬を以前とは異なるメーカーの医薬品でお渡しせざるを得ないケースがある。我々はそのような場合に、薬局薬剤師がどのような説明をすると、患者が安心して薬物治療を継続してもらえるのかを検討することを目的に、医薬品のメーカー変更時に「患者が求める説明」と同時に「薬剤師が必要と感じる説明」についても調査した。

【方法】2022/6/6～7/1の間、あおば薬局12店舗で最初に処方箋を受け付けた来局患者各3名を対象に、メーカー変更に関するアンケートを実施した。同時に、全12店舗の薬剤師にも同様のアンケートを実施し、両者の回答結果を比較した。なお、アンケート項目ごとに、集計結果の上位から1位3pt、2位2pt、3位1ptと数値化した上で検討を行った。

【結果】回答者は患者470名、薬剤師33名（無回答除外）。メーカー変更の経験がある患者は231名（49.1%）、説明の経験がある薬剤師は32名（97.0%）であった。アンケート調査結果より、患者が説明を求める内容の上位は「効能・効果」、「副作用」であったのに対し、薬剤師が必要だと感じる説明内容の上位は「効能・効果」、「形状・見た目」、「値段」であった。メーカー変更の受入可否について、「メーカー変更があっても構わない・気にしない」と回答した患者は383名（81.5%）であった。

【考察】薬剤師、患者ともに「効能・効果」の回答が多かったことで、どちらも「別のメーカーであっても薬として同じ効き目である」ことが説明の最重要項目であることが確認された。一方、患者側では「副作用」の説明を求めているのに対し、薬剤師の多くは「形状・見た目」や「値段」の説明が必要と考えていることがわかった。このことは、患者は自身の身体へのリスクを、一方で薬剤師は視覚的な変化に重きを置いていると考えられ、両者の違いが明らかとなった。これらのことから、患者にメーカー変更をより安心して受け入れてもらうためには、「効能・効果」とともに「副作用」も説明し、変更前後で身体に与える影響は同等であるということを第一に説明する必要があると考察した。